Jカフェ

～～ JAUW ヒューマンリソース活用プログラム ～～

ＪＡＵＷが誇る最大のタカラは、会員のもてるチカラです。
ここには、豊かな経験、広い知見、深い洞察があります。
ご一緒に、新しい世界を発見、創出、共有しませんか。

第6回　幼な子を座標軸に見続けた人間の世界
～子ども時代に散りばめられた経験の意味～

なぜ私たちは皆、長い間学校で同じように教育されたのにもかかわらず、それぞれが固有の興味を抱くのでしょうか？　個性？学力？家庭？地域？国？時代？どれも少しずつ起因しているような気がします。逆に「あの人」はどうして「あのような人物」になったのかを分析しても、「あのような人」になれるわけではありません。その人固有の生活空間にそれぞれの物語があり、それは見え隠れしながら体の奥底

日　　時：2019 年 11 月 16 日（土）13:30～15:30　　受付 13:15～
場　　所：本部事務所 ＋ Skype 中継
講　　師：江波諄子氏（賛助会員）
募集人数：会議室 30 名+Skype 利用
参 加 費：1,000 円（茶菓含む）／Skype 参加はアカウント１つにつき 1,000 円
申　　込：Fax：03-3358-2889（本部事務所）／E-mail：jauw.shogaigakushu.iinkai@gmail.com
　　Skype 参加希望は、上記メールアドレスへ
締　　切：11 月 13 日（水）ごろまで

【江波諄子さんから：お話のポイント】
ライフワークの「場の保育論」と自書「キーウエイディンの回想」を基に、40 年にわたり収集したエピソード記録を連ねる形で進めて参ります。数量処理した科学的エビデンスではありませんが、今はそれらに真実の原石を見出しております。

①子ども時代の経験・回想・想起（＝キーウエイディンの回想より）
②自然・時間・地域と価値文化（＝場の保育論より）
③学校教育を抜けてから探す人生の仕事とこだわり（＝場の保育論より）
④時代や社会を違えても人々に共通していた大切なこと（＝愛と見守りの大切さ）
⑤　保育学では世の中は解けない？（＝これは現在も悩みの種です！）

【プロフィール】
お茶の水女子大児童学科卒、米国ペンシルヴァニア州立大学大学院。元常磐大学教授。保育における幼児理

一般社団法人 大学女性協会　〒160-0017 東京都新宿区左門町 11-6-101
ＴＥＬ：03-3358-2882（月～金の 10:00～16:00）／ＦＡＸ：03-3358-2889
E-mail：jauw@jauw.org　／　URL：http://www.jauw.org/

J カフェ通信 6号

～ JAUW ヒューマンリソース活用プログラム ～
大学女性協会 生涯学習委員会 2019.11.9 発行

第 6 回　幼な子を座標軸に見続けた人間の世界 ～子ども時代に散りばめられた経験の意味～

講師：江波 諄子（賛助会員）
日時・場所：2019 年 11 月 16 日（日）13:30～15:30　本部事務所　会議室
参 加 人 数：12 名（会議室）

幼な子を座標軸に見続けた人間の世界
～子ども時代に散りばめられた経験の意味～

江波 諄子

保育学を学び始めた 50 年前、この分野は社会の「すみっこ」にありました。高度経済成長期でしたが就職先は極めて地味で、給料も他業種に比べて 3 分の 2 でした。それでも、だからこそ「子ども大好き」人間だけが集まって子どもの世界に感嘆していました。

（実は昭和 44 年に当協会＝旧大学婦人協会から留学のための渡航費を頂き、アメリカへ大学院留学をしましたので当協会へは深い恩を感じております。）

その後幼稚園・保育園の増加と共に保育者養成学科も続々と作られ、今や短大・大学経営には、保育者養成が欠かせないという事態になっております。

そんな社会の風とは別に、50 年間ひたすら子どもの世界を見続けていると、これは人間学そのものなのだと気づかされます。私達は公教育の普及でみんな同じように育てられるのに、誰一人同じ人生を歩む人はいません。また「あの人のようになりたい」と願ってもその人には決してなれません。何故でしょう？それを教えてくれたのが、「幼児期回想」の研究でした。一人ひとりの子ども時代に散りばめられた経験の中身をひもとくと、人間は誰ひとり全く同じ経験はしていませんが、結果として共感できる経験（＝学び）は共有していました。

お話のポイントは、
　子ども時代の経験・回想・想起
　自然・時間・地域と価値文化
　学校教育を抜けてから探す人生の仕事とこだわり
　時代や社会を違えても人々に共通していた大切なこと
　保育学では世の中は解けない？
としました。

「保育学研究」に掲載された拙著「場の保育論」[注1]では、ハイデガー[注2]やメルロ・ポンティ[注3]らの

引用をして論の裏付けをし、内容を格調高くする努力をしました。しかしいくら難しく称えても結局目の前の子どもが、そして誰もが幸せにならなくては意味がありません。それが実学です。お話の内容は、実際に収集したエピソードを紹介しながら、その中に潜む意味を参加者がお互いに理解し、それぞれの学びに繋がればと考えました。ボトムアップ手法です。

驚くべきことに、否当然のことながら人生経験豊かな参加者達が一体となり、深い内的な語り合いへと進んでいきました。提供したエピソードはその発端でしかありませんでした。

新聞等に掲載された著名人の子ども時代の経験から導かれた、子育てに欠かせない 3 つの要因、

①自然

②時間

③地域と価値文化

については、十分な時間をかけられませんでした。

この３つの要因は、実は誰もが同じような学習環境（学校や塾通い）をする現在に、貴重な一石を投じる発見でした。それは学校の成績を気にし、入試に勝つ事がまずは子育ての目標であり、成功と思いがちな子育て世代に、長期的視点で且つ足元をしっかり地に着けた固有の生活を大事に生きることの大切さを教えてくれるからです。

さらに説明すれば、新聞等に掲載された著名人のエピソードを通して人生には、具体的に次のようなことが大切なのだと気づかされます。それらは、

①暮らしの風景から受ける影響

②病から派生した諦めや謙虚さの緩やかな精神状態の中で育まれるモノ

③学校や社会への不適応が厳しく修正されずに、むしろ裏で豊かな世界を見つめる力になる

④幼い頃の感動や疑問がその後の人生を左右する

⑤親の人生は表になり裏となり子どもに影響する

⑥叔父や隣のお姉さんや近所のおじさんなど身近な人々との何気ない人間的なふれあいが、その後大きな意味を持つ

⑦親の判断で行われる早期教育・訓練の成否の責任

⑧日々の生活で垣間見る大人の生き方

⑨どこに生まれどう育つか等、自分では選ぶことの出来ないアイデンティティー

等ということでした。以上の 9 つをお話のポイントにあげた 3 つの要因＝自然・時間・地域文化とまとめたのです。だから日常の生活から目を離さないで、足元に転がっている「宝の経験」を丁寧に拾い、大切にしようと訴えたい気持ちなのです。

このような現実の人間の在り様を知ると、「あなたはあなたでいい。今のあなた自身の生活の中身を大切に」と叫ばざるを得ません。

保育学の大切な役割は、

「人は非常に身近な細やかな場で、生きる力を得ている」

と伝えることなのではないかと思うのです。相手の側に立ってその人を理解し、思いを共にする。人生の荷はその人自身が背負わなければなりませんが、傍らで誰かが自分を見ていてくれる、見守っていてくれるだけで人は強くなれます。反対に誰からも精神的に見捨てられれば（例え経済的に豊かであろうと）生きる力は急激にげんなりし、状況によっては悪へ向かってしまうかもしれません。

そんなことは誰もが分かっていますが、常に意識している人は意外に少ないように感じます。その大きな理由は、人は誰も自己のイメージが大きく、自分サイドから物事を見る傾向にあるからです。これは仕方がないことです。でも、その自分サイドから物事を見る小さな世界を次第に広げていくと、相手

の世界と重なり合ってくるのではないでしょうか？その時、相手のことが自分のこととして考えられるようになります。

ご参加下さった方々のご経験や知識が国を超えて、重く受け止められ、そこからまた新たにこの課題が発展していくように感じられました。

一方、日頃の新聞やテレビ等の表面だけを見ていると現実の社会の中で保育学の無力さを感じます。

私達は長い間、子ども達に「・ウソはつかない・相手が嫌なことはしない・悪かったら心から謝る・相手の気持ちになる・共に生きる」等を教えてきたのに・・・。

注 1：マルティン・ハイデガー…ドイツの哲学者。哲学は人間存在の解釈学から出発する現象学的存在論であるという立場から，人間存在分析を通して存在の意味への問いを新たに設定した主著『存在と時間』Sein und Zeit（1927）は，実存主義その他に広範な影響を与えた。（ブリタニカ国際大百科事典　小項目事典）

注 2：メルロ・ポンティ…フランスの哲学者。ブランシュビック流の観念論の批判から出発，ゲシュタルト心理学や行動主義の科学的心理学の成果を批判的に摂取し，特に後期のフッサールの現象学を発展させて，主観と世界や他人との関係についての考察を展開した。（同）

【講師プロフィール】

お茶の水女子大児童学科卒、米国ペンシルヴァニア州立大学大学院。元常磐大学教授。保育における幼児理解を主に研究・実践。著書・論文多数。元日本保育学会所属。

◆「幼な子を座標軸に見続けた人間の世界」に参加して

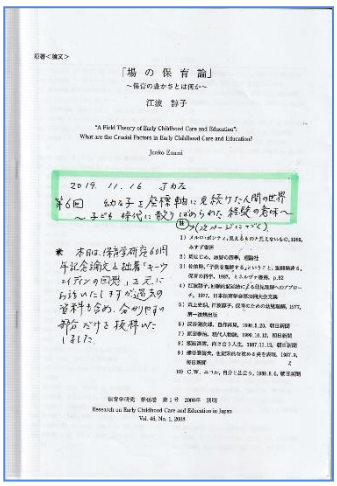
報告者　　劉 瑛

11 月 16 日、暑くもない寒くもない気持ちのいい日、午後 1 時半に鷲見会長をはじめ、事務所に 11 名が集まりました。すでに楽しい雰囲気が漂っていました。というのも、おいしそうなお菓子などがたくさん並んでいました。手作りの栗の渋皮煮まであり、さすが才能あふれている先輩達と感心しました。

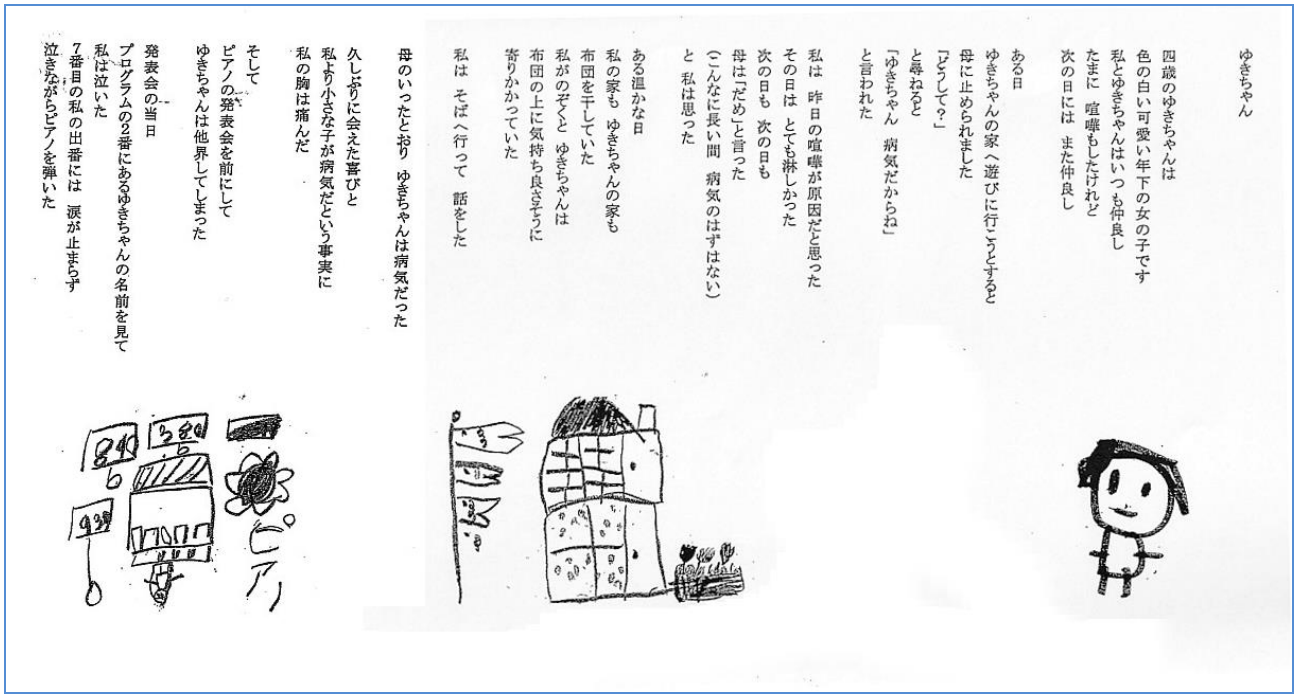
江波先生は、難しい講座の雰囲気が全くなく、普通にお友達と気軽に話す茶話会の感じでお話をはじめられました。

若いころアメリカへ留学したときに大学婦人協会（大学女性協会の前身）からの奨学金を得られた先生は懐かしく当時の様子を話してくださいました。現役を去られた先生は、そのときの感謝の印として、大学女性協会に寄付をなさり、賛助会員にもなってくださいました。大学女性協会の先輩達が撒いた種が大きい樹になって陰をくれた感じもしています。

今回の講座は先生のご著書「キーウェイディンの回想」を元にわざわざ一部を抜粋して資料を用意してくださいました。そもそもこの本を出版した経緯は、幼児教育・保育関連の学科では、難しい心理学などの理論的教科が中心となるのですが、それ以外に、何を教えればいいのでしょうかと先生は悩まれ、まず学生達に子どもの時の記憶を書いてもらうことにしました。ただ、大変プライベートな問題なので、信頼を勝ち得ないと、なかなか書いてもらえない、という現実がありました。



そうしているうち、かなりの資料が蓄積でき、このような貴重な資料をいかにもっと多くの方に役に立ててもらえるかを考えて、プライバシーに気を付けながら、まとめて出版することにしました。ご本人の承諾もひとつひとつとらなければならず、大変な作業でしたが、大学を卒業後、全国のあちらこちらに住んでいるかつての学生達と連絡が取れて、60 人のうち、59 人もの人達が、掲載を快諾してくれました。ただ、一番入れたかった話を書いてくれた元学生は、保留の返事が返ってきました。「自分だけの思い出にする」とのことでした。とても残念だったので、電話をして御本人の意思を尊重する旨をお話したら、「発表する」と意思を変えてくれたのです。下記の「ゆきちゃん」の話でした。



ゆきちゃん

四歳のゆきちゃんは
色の白い可愛い年下の女の子です
私とゆきちゃんはいつも仲良し
たまに　喧嘩もしたけれど
次の日には　また仲良し

ある日
ゆきちゃんの家へ遊びに行こうとすると
母に止められました
「どうして？」
と尋ねると
「ゆきちゃん　病気だからね」
と言われた

私は　昨日の喧嘩が原因だと思った
その日は　とても淋しかった
次の日も　次の日も
母は「だめ」と言った
（こんなに長い間　病気のはずはない）
と　私は思った

ある温かな日
私の家も　ゆきちゃんの家も
布団を干していた
私がのぞくと　ゆきちゃんは
布団の上に気持ち良さそうに
寄りかかっていた

私は　そばへ行って　話をした

母のいったとおり　ゆきちゃんは病気だった

久しぶりに会えた喜びと
私より小さな子が病気だという事実に
私の胸は痛んだ

そして
ピアノの発表会を前にして
ゆきちゃんは他界してしまった

発表会の当日
プログラムの2番にあるゆきちゃんの名前を見て
私は泣いた
7番目の私の出番には　涙が止まらず
泣きながらピアノを弾いた

先生が真っ先にこの話を読んでくださいました。「ピアノの発表会当日、2 番にあるゆきちゃんの名前を見て、7 番目の自分は涙が止まらず泣きながらピアノを弾いた」と、一番仲のいい友達と死別した幼い子どもの悲しさがそのまま伝わってきて、子どもの純粋で柔らかい心を実感させられ、心に響きました。

また、大好きなお米屋さんのおじいさんの歯がないことをからかって、お母さんに「絶対だめ」と言われながら、我慢できなくて「お母さんが歯がないって言ったらダメなんだよねって言った」とおじいさんに言った子、思わず笑ってしまいました。同じタイプの子に悩まされている親はあちらこちらにいるでしょう。これを読めばほっとするのではないでしょうか。

親に連れられて登園するとき、毎日泣いてた子がいました。ある日事情があって叔父さんが送ってくれたとき、その日は「泣かない」と宣言しました。泣かれるだろうと思っていた叔父さんは、それを見

て逆に泣いてしまいました。その日からなぜか泣かなくなり、保育所に楽しく通うようになったとの話を読み、先生が「大人が弱みを見せると、子どもが強くなる。大人が逞しい一方を続けると、バンバン反発される」と感想を話され、「なるほど」と納得しました。

こういうように、先生が学生さん達ひとつひとつの子ども時代の思い出をピックアップなさり、子どもの心が目に見えるように伝わってきました。有名人の子ども時代の思い出も、新聞などのマスコミで語ったものの中から、集めていらっしゃり、その内容も披露してくださいました。

参加者はいただいた資料の内容をシェアしたり、それぞれが感じたこと、思いついたこと、悟ったことを話し合っているうちに時間になってしまいました。中国語でいえば「意犹未尽」ごとく、まだまだ聞きたい話したい気持ちは山ほどありましたが、とても残念でした。

最後に、ずっと保育に携わってこられた先生が「保育って一体何でしょうか」と参加者に問いかけられました。（本当に保育のことを一生懸命真剣に考えている先生ですね。）

確かに社会的に成功した方、出世した方、エリートになった方は、大抵、親がどうしたとか、自分がどう頑張ったとかを話す方は多いですが、めったに保育園ではどうだったとか、保育園の先生がどうだったとかを話す方がいないです。

けれども、人間は果たして社会的に見て成功したことだけが成功した人生でしょうか。平凡でも自分なりに幸せを感じて、精神的に豊かな一生を送れば、それも大成功ではないでしょうか。その意味では、むしろ子ども（幼い時期）に優しくしてもらえた、愛されたことが一生の幸せの根本になります。中国では、「幸せな子ども時代は大人になった後のすべての苦しみを直してくれる」と言い方があります。

逆に言えば、精神的に問題ある大人はすべて、子どもの時期にその問題の原因があるともいえるでしょう。親も大事ですが、子どもの心を理解し、自分の子どもの時の気持ちを忘れずに、子どもの角度から物事を考えて、見て、本当の意味での優しい先生こそ、人生にとっては一番ありがたい存在だと思います。その意味では、江波先生がとても素晴らしい先生だということは、他にいうことがないと思います。江波先生のような先生がもっと沢山いて、もっと多くの方々が先生の研究で『柔らかい』心になられたら、本当に世界も優しくなることでしょう。

江波先生、ありがとうございました。

【アンケートから】

・とても心に残るお話ありがとうございました。私もずっと子供の心に興味を持ち続けてきました。実際の子供達の生の声をきけた思いてした。(R.I.)

・とても楽しいＪカフェでした。江波さんの素晴らしいお話に心打たれました。保育の領域は結局は人生と重なって心が洗われた気持ちでした。もっと江波先生にはお話しを聞きたいと思いました。(K.H.)

・子供達は社会人となり、子育てのことを考えることは遠ざかっておりましたが、本日はとても興味深く幼少の頃にお話しを伺うことが出来たらと思いました。人間に対する深い愛情に満ちて、心からＪカフェにお誘い頂きましたＳ様に感謝申し上げます。ありがとうございました。(C.M.)

・子どもの教育ということが一番大切ということを実感できました。最近、胎内記憶のことを一部聞いたこともあり、親となったときからの教育が重要と感じました。また、お話しを聞きたいです。残念ながら、自分は子供はおりませんが、長年の男女共同参画の協議会の会長をやっているので、全人生にかかわることなのでとても興味はあります。(W)

・子供に対するていねいな接し方に多くを教えて頂きました。時間があっていう間に過ぎてしまい、話し合いの時間をもっと持てたら良かったと思いました。

・感銘深いお話をありがとうございました。自分の子供時代のことを思い出し、良くも悪くも今の自分の根本を形成している、と自覚しました。と同時に、我が子たちに、今も心に残る“おかしなこと”をしてしまったのではないか、と急に心配になりだしました。今さら、遅いのですけれど。(K.S.)

以上

生涯学習委員会　2019年度

Jカフェ

～～ JAUW ヒューマンリソース活用プログラム ～～

ＪＡＵＷが誇る最大のタカラは、会員のもてるチカラです。
ここには、豊かな経験、広い知見、深い洞察があります。
ご一緒に、新しい世界を発見、創出、共有しませんか。

第6回　幼な子を座標軸に見続けた人間の世界

～子ども時代に散りばめられた経験の意味～

なぜ私たちは皆、長い間学校で同じように教育されたのにもかかわらず、それぞれが固有の興味を抱くのでしょうか？　個性？学力？家庭？地域？国？時代？どれも少しずつ起因しているような気がします。逆に「あの人」はどうして「あのような人物」になったのかを分析しても、「あのような人」になれるわけではありません。その人固有の生活空間にそれぞれの物語があり、それは見え隠れしながら体の奥底で呼吸していました。

日　　時：2019年11月16日（土）13:30～15:30　受付13:15～
場　　所：本部事務所 ＋ Skype中継
講　　師：江波諄子氏（賛助会員）
募集人数：会議室30名+Skype利用
参 加 費：1,000円（茶菓含む）／Skype参加はアカウント１つにつき1,000円
申　　込：Fax：03-3358-2889（本部事務所）／E-mail：jauw.shogaigakushu.iinkai@gmail.com
Skype参加希望は、上記メールアドレスへ
締　　切：11月13日（水）ごろまで

【江波諄子さんから：お話のポイント】
ライフワークの「場の保育論」と自書「キーウエイディンの回想」を基に、40年にわたり収集したエピソード記録を連ねる形で進めて参ります。数量処理した科学的エビデンスではありませんが、今はそれらに真実の原石を見出しております。
①子ども時代の経験・回想・想起（＝キーウエイディンの回想より）
②自然・時間・地域と価値文化（＝場の保育論より）
③学校教育を抜けてから探す人生の仕事とこだわり（＝場の保育論より）
④時代や社会を違えても人々に共通していた大切なこと（＝愛と見守りの大切さ）
⑤　保育学では世の中は解けない？（＝これは現在も悩みの種です！）

【プロフィール】
お茶の水女子大児童学科卒、米国ペンシルヴァニア州立大学大学院。元常磐大学教授。保育における幼児理解を主に研究・実践。著書・論文多数。元日本保育学会所属。

★ 生涯学習委員会では、JAUWの人材を活かす活動を企画中。他薦・自薦大歓迎！
・「災害を語る」シリーズ化：ジェンダーの視点から、災害に関する経験や提言を収集
・Ｊカフェ：「あの人にあの話を聞きたい」（経験談、趣味の紹介、専門知識など）
★ 生涯学習委員会専用メールアドレス：　jauw.shogaigakushu.iinkai@gmail.com

一般社団法人 大学女性協会　〒160-0017 東京都新宿区左門町 11-6-101
ＴＥＬ：03-3358-2882（月～金の10:00～16:00）／ＦＡＸ：03-3358-2889
E-mail：jauw@jauw.org　／　URL：http://www.jauw.org/